

レール&トレインライド能登島レポート

1. コース

今回のコースはJRの電車に自転車を乗せ、のと鉄道に乗り換え、能登中島へ、ここから以前ユニバーシアード世界大会の自転車コースを利用し、能登島に渡り、再び和倉温泉へと戻るほぼフラットな20キロメートルのコースです。昨年完成した角偉三郎（輪島塗）、辻口博啓（パテシェ）の美術館の見学をして、帰りも鉄道利用のレール&サイクルトレイン実験をしました。



2. 経過報告

2006年10月29日、8時15分集合、前日の天気予報も外れ、サイクリング日和となりました。集合は金沢駅前の鼓門前、JRでは自転車の乗り入れを禁止しているため、自転車の分解、パッキングが必要です。今回自転車の愛好家の参加をお願いしたのですが、分解可能な自転車を持っている方には中途半端な人は無く、最低50~100キロぐらい走らないと面白くないようで、ぼくらのような、中途半端な走行レベルの人には、無理な距離です。

JRを利用しての、ファミリーのサイクリングは、現状ではほとんど不可能だとわかりました。しかもJRは運行規則を変更する意識も、努力もまったく無く、列車丸ごと貸切るしか自転車を乗せて運行できないそうです。いまだにお役所並みの体制は変化していません。新幹線が金沢まで開通し、JRが撤退、第三セクター化するまで、レール&サイクルライドはほとんど無理かもしれません。今回は参加人員は、バックアップ車も含めて9名でした。

パッキング時間は慣れた人で10分から20分、輪行袋の総重量は、ロードで10kg、折りたたみ自転車では15kgにもなります。それに水筒や、雨具等を積むと、女性や子供では駅構内の移動だけでも、ほとんど無理だとわかりました。トランク用の軽量キャリアに乗せてやっと動ける状態です。もちろん

ん階段は無理、身障者用エレベーターしか運べません。(ごめんなさい)

金沢駅からJR七尾駅まで1時間半、ここでのと鉄道に乗り換えです。のと鉄道はサイクリングには協力的で、自転車の持ち込みは自由、しかも無料で折りたたみ自転車を貸し出してくれます。全部で15台あるそうで、もし来年ツアーを実施する場合、列車の車両の増設まで無料で協力してくれるそうです。列車も新しく、身障者用スペースも確保、問題はJRとの連携です。のと鉄道の切符も、時刻表も金沢駅では情報が無いのです。せめて相互乗り入れをしているのですから、切符も自販機で買えないものかと思います。



今回のサイクリングルートは、2002年ユニバーシアード世界大会に用意された自転車コース40キロの半分、峠越えは避け、女性や子供でも走れるコースを選択しました。ほとんどが海に面した快適なコースでした。

ツインブリッジの展望台で昼食、目の前に海が広がり、快適なランチタイムでした。少し昼寝？した後再スタート、ツインブリッジを渡り能登島へ、体力に余裕があればガラス美術館までの能登島ハーフコースも可能、今回は幼児を乗せた自転車が2台あるためショートカット、海岸縁を能登島大橋までたどります。能登島大橋は延長1キロ以上、橋を歩いて渡る人はほとんどいません。自転車を押して歩道を歩けなどとした看板を見つけました。でも自転車は車道を走らないといけないはずですよ、取り外しましょう。和倉温泉で美術館を見学、角偉三郎さんには、押水の重要文化財、喜多家の収蔵庫の壁面をお願いした事もあり、旧知で、芸術より民芸を重視された方でした。パテシェの辻口さんは超売れっ子、カフェテリアは着飾った、おば様方の社交場と化していました。コーヒーも飲めない状態なので、予定を変更、七尾駅まで、サイクリングを延長、JRで、少々ばて気味で帰ってきました。